Part 6 ／ 60分

11:05 スタート ／ 10名 × 3分 = 30分

ライトニングトーク大会

あなたが作ったものを、3分で見せてください



① **一人3分が目安 —**
ベル2回で交代します

② **デモ中心 —**
動かして見せるのが一番強い

③ **スライドは任意 —**
用意していなくて大丈夫

話すことは、3つだけ



1 何を作ったか ― 動かして見せる



2 AIとのやりとりで学んだこと ―
どう頼んだら、うまくいったか



3 詰まったところ ―
どこでハマって、どう抜けたか

要点：　完成度は問いません。作った過程が一番おもしろい

タイムキープと、応援のルール

発表する人へ



残り30秒でベル1回 ／ 3分でベル2回 = 拍手して交代

途中で終わっても大丈夫。切りのいいところで止めてください



聞く人へ



拍手は多めに。全員が今日はじめて発表します

質問は終了後に個別で。まずは全員を回しきります



次の人は、前の人の発表中に**接続**を準備

発表中



1. 何を作ったか
2. AIとのやりとりで学んだこと
3. 詰まったところ

ベル1回 = 残り30秒 ／ ベル2回 = 拍手して交代

拍手は多めに

1.5日で身につけた「型」

仕様書 → 生成 → 検証 → コミット



1 仕様書を書く

— 何を作るかを、自分の言葉で決める



2 生成させる

— エージェントにコードを書かせる



これが、あなたが持ち帰る技術です



3 検証する

— 実行して、差分を読んで、確かめる



4 コミットする

— 動いた状態をセーブする



要点：ツールは変わり続ける。この型は変わらない

あなたはもう「使う側」ではなく『作る側』

昨日の朝の宣言: 自作アプリを GitHub に push して LT する





- 開発環境を自分で構築した (uv + VS Code + Copilot + Git)



- 仕様書からアプリを作った



- GitHub リポジトリに push した



- 人前で、自分が作ったものを見せた

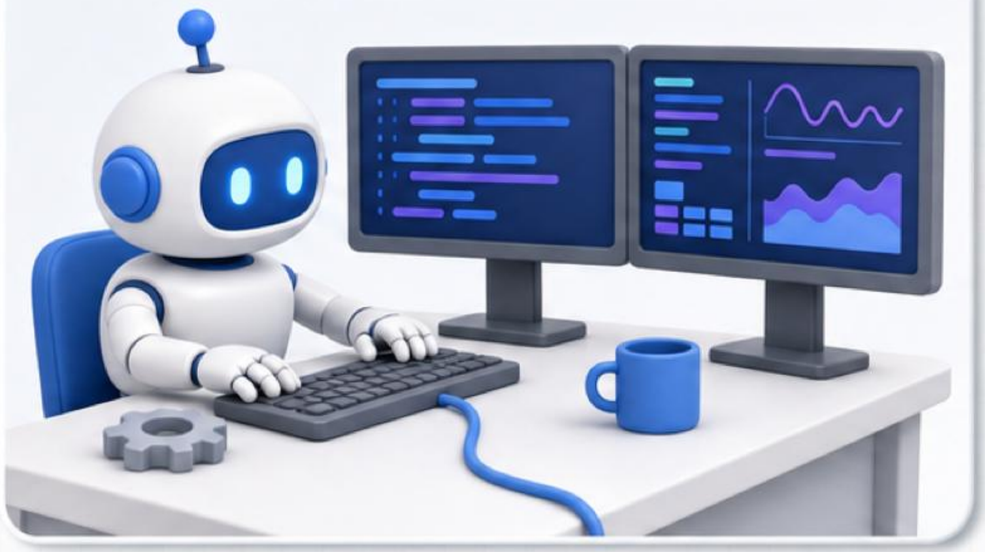




— 1.5 日前の宣言は、すべて達成されました

ドメイン知識 × AI — 研究室に持ち帰る

AIが書けるのは、コードまで



×

何を作るべきかは、経験と現場感からしか出てこない



あなたの専門 × AI駆動開発の例:

- 実験・解析データの前処理と可視化ツール



- シミュレーション結果の比較・整理の自動化



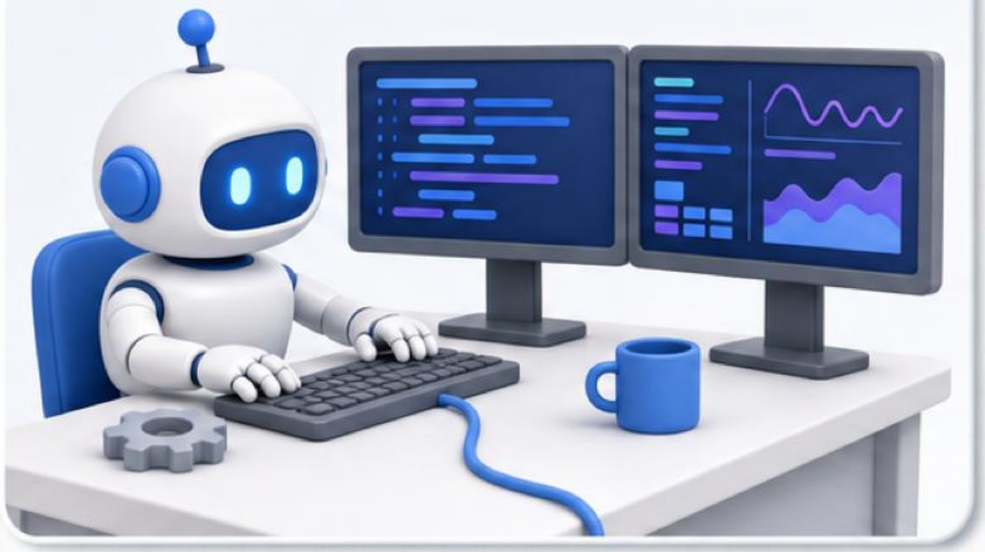
- 研究室内の手順・計算メモを引ける小さなツール



※ 原則は公開情報・架空データ。 未公開データは所属機関の規程を確認した承認済み環境のみ

ドメイン知識 × AI — 研究室に持ち帰る

AIが書けるのは、コードまで



×

何を作るべきかは、経験と現場感からしか出てこない



あなたの専門 × AI駆動開発の例:

- 実験・解析データの前処理と可視化ツール



- シミュレーション結果の比較・整理の自動化



- 研究室内の手順・計算メモを引ける小さなツール



※ 原則は公開情報・架空データ。 未公開データは所属機関の規程を確認した承認済み環境のみ

これからの学び方 — AI に聞きながら自走する

今日作った環境は、今日から使えます。消さないでください



① 分からないことは、まず AI に聞く
— エラーはそのまま貼る



② 小さく作って、動いたらコミット
— 完成を目指さない



③ 詰まったら、仕様書に戻る —
曖昧な依頼は曖昧なアプリになる



本日の資料は後日共有します。いつでも復習できます

一番エキサイティングな時代を、学生として生きる

20年に一度の大変革のただ中にいます
そのはじまりに、学生として立ち会えているのは、幸運です

作れる人が、次の時代を決めます
今日はゴールではなく、スタートラインです



修了おめでとうございます

― 1.5日間、おつかれさまでした ―





事後アンケートのお願い（3分）

- 今日いちばん印象に残ったこと
- これから作ってみたいもの
- 今後扱ってほしいテーマ